

# 社会福祉法人川崎いのちの電話定款

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という）は、精神的危機に直面し、助けと励ましを求めている人々に、電話等による対話の場を提供し、悩みの軽減または解放を図り、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会で営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

### 第二種社会福祉事業

一般相談支援事業（川崎いのちの電話センター）の経営

### (名称)

第2条 この法人は社会福祉法人川崎いのちの電話という。

### (経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図るものとする。

### (事業所の所在地)

第4条 この法人の事務所を川崎市内に置く。

## 第2章 役員及び職員

### (役員の定数)

第5条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 11名
- (2) 監事 2名

2 理事のうち1名は、理事の互選により、理事長となる。

3 理事長は、この法人を代表する。

4 役員の選任に当たっては、各役員について、その親族その他特殊の関係がある者が、理事のうち2名を超えて含まれてはならず、監事のうちにこれらの者が含まれてはならない。

### (役員の任期)

第6条 役員の任期は2年とする。但し補欠の役員の任期は、その前任者の残任期間とする。

2 役員は再任されることができる。

3 理事長の任期は、理事として在任する期間とする。

### (役員の選任等)

第7条 理事は評議員会において選任し、理事長が委嘱する。

2 監事は、評議員会において選任する。

3 監事は、この法人の理事、評議員、職員及びこれらに類する他の職務を兼任することができない。

### (役員の報酬等)

第8条 役員の報酬については、勤務実態に即して支給することとし、役員の地位にあることのみによっては、支給しない。

2 役員には費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(理事会)

第9条 この法人の業務の決定は、理事をもって組織する理事会によって行う。ただし、日常の軽易な業務は理事長が専決し、これを理事会に報告する。

2 理事会は、理事長がこれを招集する。

3 理事長は、理事総数の3分の1以上の理事または監事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から1週間以内にこれを招集しなければならない。

4 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。

5 理事会は、理事総数の3分の2以上の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。

6 前項の場合において、あらかじめ書面をもって、欠席の理由及び理事会に付議される事項についての意思を表示した者は、出席者とみなす。

7 理事会の議事は、法令に特別の定めがある場合及びこの定款に別段の定めがある場合を除き、理事総数の過半数で決定し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

8 理事会の決議について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

9 議長及び理事会において選任した理事2名は、理事会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名または記名押印しなければならない。

(理事長の職務の代理)

第10条 理事長に事故あるとき、又は、欠けたときは、理事長があらかじめ指名する他の理事が、順次に理事長の職務を代理する。

2 理事長個人と利益相反する行為となる事項及び双方代理となる事項については、理事会において選任する他の理事が理事長の職務を代理する。

(監事による監査)

第11条 監事は、理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況を監査しなければならない。

2 監事は、毎年定期的に監査報告書を作成し、評議員会、理事会及び川崎市長に報告するものとする。

3 監事は、前項に定めるほか、必要があると認めるときは、評議員会、理事会に出席して意見を述べるものとする。

(職員)

第12条 この法人に、事務局を設け、職員若干名を置く。

2 事務局長は、評議員会の同意を得て、理事会の議決を経て、理事長が任免する。

3 事務局長以外の職員は、理事長が任免する。

### 第3章 顧問・参与

第13条 必要に応じ、この法人に顧問、参与若干名を置く。

2 顧問は、理事会、評議員会の承認を得て理事長が委嘱する。

3 顧問は、この法人の業務について理事長の諮問に答え又は意見を具申する。

4. またその専門知識を活かして当法人の活動に参加いただくとともに、顧問は理事会に、参与は評議員会にそれぞれ出席し、意見を述べるができる。ただし、いずれも理事会・評議員会での議決権は持たない。

5 任期については、役員の任期に準ずる。

6. 顧問・参与の報酬については、勤務実態に即して支給することとし、その職にあることのみではこれを支給しない。

## 第4章 評議員及び評議員会

### (評議員会)

第14条 評議員会は、23名の評議員をもって組織する。

- 2 評議員会は、理事長が招集する。
- 3 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員または監事から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内にこれを招集しなければならない。
- 4 評議員会に議長を置く。
- 5 議長は、その都度評議員の互選で定める。
- 6 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。
- 7 評議員会の議事は、評議員総数の過半数で決定し、可否同数の時は、議長の決するところによる。
- 8 評議員会の決議について、特別の利害関係を有する評議員は、その議事の議決に加わることができない。
- 9 議長及び評議員会において選任した評議員2名は、評議員会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名または記名押印しなければならない。
- 10 評議員の報酬については、勤務実態に即して支給することし、評議員の地位にあることのみによっては、支給しない。

### (評議員会の権限)

第15条 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 予算、決算、基本財産の処分、事業計画及び事業報告
  - (2) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
  - (3) 定款の変更
  - (4) 合併
  - (5) 解散（合併又は破産による解散を除く。以下この上において同じ）
  - (6) 解散した場合における残余財産の帰属者の選定
  - (7) その他この法人の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認める事項
- 2 理事会は、前項に掲げる事項を決定しようとするときは、原則としてあらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

### (同前)

第16条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え又は役員から報告を徴することができる。

### (評議員の資格等)

第17条 評議員は、社会福祉事業に関心を持ち、又は学識経験ある者で、この法人の趣旨に賛成して協力する者の中から理事会の同意を経て、理事長がこれを委嘱する。

- 2 評議員の委嘱に当たっては、各評議員について、その親族その他特殊の関係がある者が3名を超えて含まれてはならない。

### (評議員の任期)

第18条 評議員の任期は2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 評議員は、再任されることができる。

## 第5章 会員

### (会員)

第19条 この法人に会員を置く。

2 会員は、この法人の目的に賛同し、目的達成のため必要な援助を行うものとする。

3 会員に関する規程は、別に定める。

#### 第6章 資産及び会計

##### (資産の区分)

第20条 この法人の資産は、これを分けて基本財産と運用財産の2種とする。

2 基本財産は、次に掲げる財産をもって構成する。

(1) 定期預金

2000万円

(2) 土地

川崎市中原区 敷地 32.29平方メートル

川崎市中原区 敷地 16.52平方メートル

(3) 建物

川崎市中原区 鉄骨造陸屋根4階建

1階 38.98平方メートル

2階 38.98平方メートル

3階 38.98平方メートル

4階 38.98平方メートル

なお建物の減価償却額を毎年原価償却引当積立金として積立て、資産の減少を補填する。

3 運用財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

##### (基本財産の処分)

第21条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、川崎市長の承認を得なければならない。ただし、社会福祉・医療事業団に対して基本財産を担保に供する場合には、川崎市長の承認は必要としない。

##### (資産の管理)

第22条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて保管する。

3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

##### (特別会計)

第23条 この法人は、特別会計を設けることができる。

##### (予算)

第24条 この法人の予算は、事業計画とともに、毎会計年度開始前に、理事長において編成し、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

##### (決算)

第25条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表および収支計算書は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に理事長において作成し、監事の監査を経てから、理事会の認定を得なければならない。

- 2 前項の承認を得た書類及びこれに関する監事の意見を記載した書面については、事務所に備えておくとともに、この法人が提供する福祉サービスの利用を希望する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供さなければならない。
- 3 会計の決算上繰越金を生じたときは、次会計年度に繰り越すものとする。ただし、必要な場合には、その全部又は一部を基本財産に編入することができる。

(会計年度)

第26条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第27条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第28条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第7章 解散及び合併

(解散)

第29条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第30条 解散（合併又は破産による解散を除く）した場合における残余財産は、理事総数の3分の2以上の同意によって、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

(合併)

第31条 合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て川崎市長の認可を受けなければならない。

## 第8章 定款の変更

(定款の変更)

第32条 この定款を変更しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、川崎市長の認可（社会福祉法第43条第1項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く）を受けなければならない。

- 2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を川崎市長に届け出なければならない。

## 第9章 公告の方法その他

(公告の方法)

第33条 この法人の公告は、社会福祉法人川崎いのちの電話のホームページに掲示するとともに、官報又は新聞に掲載して行う。

(施行細則)

第34条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長

近藤俊朗

理 事	安 藤 義 雄	馬 本 克 美
	浦 部 厚 美	片 山 世 紀 雄
	金 子 圭 賢	坂 本 堯
	白 井 節 夫	神 保 光 代
	徳 増 信 義	林 伸 郎
監 事	榎 本 瑠 美 子	小 山 稀 世

- 附 則 この定款は平成5年8月19日から施行する。
- 附 則 この定款は平成7年4月28日から施行する。
- 附 則 この定款は平成11年5月24日から施行する。
- 附 則 この定款は平成15年4月1日から施行する。
- 附 則 この定款は平成20年9月4日から施行する。
- 附 則 この定款は平成23年4月1日から施行する。
- 附 則 この定款は平成24年5月11日から施行する。
- 附 則 この定款は平成27年4月1日から施行する。
- 附 則 この定款は平成28年4月1日から施行する。